

「地域若者サポートステーション」事業の今後のあり方に関する論点(案)
に関連するこれまでの主な議論等

1 地域若者サポートステーション(以下「サポステ」という。)事業の評価について
(これまでの実績を踏まえて、サポステ事業の評価はどうか。)

- ・ 実績、内容、社会的意義について大変高く評価できる。
- ・ サポステに寄せられるニーズは大きく、可能性は多くある。
- ・ サポステという種が、土(専門性を持つ受託団体)に植えられ、根(地域のネットワーク)を張り、幹(キャリア相談)をつくり、関係機関等との連携により、花や果実(就職等)を付ける。
- ・ サポステができたことによって、女性のニート等にも支援が届くようになり、最近では、更生保護行政とのつながりもできてきた。
- ・ 当初は、情報整理まで手が回らなかったが、実態を把握できるようになってきた。
- ・ NPO は基盤も脆弱で、一定の枠を超えられなかったが、サポステ事業受託によって地域の関係機関と対等に事業を展開することができるようになった。
- ・ 調査をみても、家族以外と一緒にいることがない者は多い。サポステの質の向上も大事だが、量もしっかりサポートしていく必要がある。
- ・ 佐賀では、サポステを受託しているNPO 法人が中心となって、サポステで構築したネットワークを活用し、子ども・若者育成支援の取組みを進めている。

(サポステの機能についてはどうか。)

- ・ 悩んでいて働けなくても、心の悩み相談センターには行かない。仕事に向けてだから行く。サポステは、「働く」ことに向かって進むところであり、その軸は、ぶれてはいけない。
- ・ まずアルバイトから始めたいと言う若者は少なくなく、サポステの目的は、正社員就労でなく、キャリア形成。
- ・ 今、若者に何が起きているか発見する機能がある。
- ・ サポステ利用者は、「働きたい」のではなく、「働けるようになりたい」という者が多い。

(今後取り組むべきことはなにか。)

- ・ ニーズはあるが、予算規模もあわせて、どの範囲まで支援するのか検討が必要。
- ・ サポステで働くスタッフの労働条件を考えることも重要。
- ・ サポステの頑張りには頭が下がるが、広げればよいのではなく、足元を見たうえで、当初期待されていた役割をきちんと守りながらプラスα 何ができるのか考えることが必要。
- ・ ユニバーサルサービスを目指すのか、ダイバーシティサービスを目指すのかという議論が必要。ニート等の置かれている状況は個々異なるので、サポステごとに個性が必要ではないか。
- ・ 若者を支援することも大事だが、若者を支援する若者を支援することも大事だ。
- ・ ニート対策だけではなく、社会的投資という位置づけにしていく必要がある。

- ・ 入口データ(生保受給、不登校歴、障害者手帳の有無等を含む)が充実することにより、さらに若者の現状把握の拠点としての役割を果たすことができる。
- ・ 進路決定後も、一定期間追いかけて、実態を明らかにしていく必要がある。
- ・ 企業連携については、中小零細企業だけでなく、大企業にもアプローチすることが重要。CSRの一環になるほか、ISO更新にも役立つ。
- ・ 委託費なので精算払いとなり、間接費の計上もできない。長期的にみて問題ではないか。自治体の連携を考えても、毎年企画競争が行われるというのはつらい。
- ・ 費用対効果については、サポステも含め、直接的効果だけでなく、支援の場がなかった場合に発生する社会的なコストを考える必要がある。
- ・ 自治体の予算措置は半分に満たず、進んでいない。広域自治体にしたいが、縦割りがあり、自治体同士は牽制しあうので、それをクリアする必要がある。
- ・ 地方と大都市の事情は違うことを考慮すべき。地方には、お金も車もなくサポステに行けない人がいる。地方ではニート等は大体把握されていると思うが、東京ではわからない。
- ・ 自立支援関係機関には、利用者にとって「行きづらさ」があり、同一市内のサポステを利用したい者は多くないだろう。

2 評価のための指標について

(利用者の個々の段階に応じた改善状況の評価指標としては、どのようなものが適切か。)

- ・ 就職等進路決定者数以外に取らなければいけないものがある。成果指標の取り方については、再検討する必要がある。意識のレベルだけでなく、能力、環境等複合的な問題を捉えることも必要。
- ・ 成果指標の作成にあたっては、納税者に対する説明責任と、(本人以外の)家族に対する支援についての評価を考える必要がある。
- ・ 成果指標については、就職等に至るまでのプロセスを定量化することが必要。

(サポステによる波及効果についても考慮すべきではないか。)

- ・ サポステ事業があることで、サポステ事業本体でなく波及効果的なものとして、それぞれのNPOが一步先の違う話も展開できるようになった。
- ・ サポステの特性は、ネットワークを構成し、関係機関との協働の元で支援を実施していくことである。地域に様々な効果を与え、複数の事業が立ち上がってきている。
- ・ サポステ事業を展開する中で、これまで手が回らなかったニーズに対して、手を差し延べる事業が数々立ち上がってきていることも含め、きちんと検証していく必要がある。

(優れた取組みを行うサポステを評価・支援するしくみが必要ではないか。)

- ・ 委託事業だが、負担した分に対してのインセンティブ、対価をネットワークの中に盛り込まなければ、せっかくの良い取組みもつぶれていってしまう。
- ・ インセンティブや結果に関連して、評価基準を見直す必要がある。

3 サポステの対象者及び支援内容について

(「**貧困の連鎖**」が問題となる中、生活に困窮している若者をどう考えるのか。)

- ・ 貧困と学力の相関関係ははっきりしているので、学力的に厳しい子供たちが多い学校にターゲットを絞りながら、関係を広げれば効果的。

(従来からのサポステの利用者層の利用しやすさにも配慮すべきではないか。)

- ・ 福祉関連との連携・支援をこれからどのように広げていくかはとても重要だが、福祉に広げていけばいいかという、そうではなく、(生活困窮者でない)従来の利用者がはじき出されてしまう懸念もある。

(より困難な者に対する支援についてどう考えるべきか)

- ・ 文化学習協同ネットワークは、パーソナル・サポート・サービスも受託して相模原サポステに併設し、より困難なケースは、パーソナル・サポート・サービスで時間をかけて支援している。
- ・ 今のサポステメニューでは、とにかく毎日どこか行き先が必要だという者には不十分であり、そういう者にとって何が必要かの議論が必要。
- ・ 通所型で毎日通えるデイスクールや、生活基礎訓練の場としての「**宿泊型の訓練機関**」が必要ではないか。
- ・ 学校との連携を強化していくと、さらに困難度が高く、生活支援が必要な者等も対象となるが、「**就労支援**」という位置付けが薄まってはいけない。

4 サポステの支援の質確保について

(支援の質を確保・向上させていくにはどうすればよいか。)

- ・ サポステによって、質的なばらつきもあるが、学校だけでは抱えておけない困難を持った者もいるので、人材育成に積極的に取り組む必要がある。
- ・ 若者自立支援中央センターが指導を行っているが、サポステの数も増えてきているので、力のあるサポステを活用してはどうか。
- ・ 専門人材をマネジメントできる人材も育てていくことが必要。
- ・ さがサポステでは、戦略的人材育成を行い、アウトリーチに携わるスタッフには、しっかりした専門性を身に付けさせている。

(サポステの機能(求職活動の全段階機能、キャリア形成支援的機能)の確保・向上のためには、どうすればよいか。)

- ・ サポステの理念の実現のためには、サポステにいるキャリア・コンサルタントが、相談に専念できるようにすることや、ハローワークの機能を最大化できるよう、サポステの機能の整備や連携の強化をしていくことが必要。

5 学校との連携強化について

(学校との連携強化のために何をすべきか。)

- ・ サポステは、学校側からみて、非常に大きな力になる部分がたくさんある。
- ・ サポステが学校のどの部分を支援できるのかを明確にし、アピールしていく必要がある。
- ・ 学校側からみて、サポステと連携する以前は、どういう成果があるか見えていなかった。
- ・ 高校は、やめていく生徒に手厚くしなければいけない。うまくサポステと連携できると支援につながっていく。
- ・ 学校は教育の場であり、支援の場ではない。サポステのような支援機関が学校に入っていくためには、教育の側の理解も重要。
- ・ 学校だけではどうにもならないことがあり、学校としても、「助けて欲しい」という感覚がある。
- ・ 学校との連携を強化していくと、困難度が高く、生活支援が必要な者等も対象となるが、「就労支援」という位置付けが薄まってはいけない。(再掲)

(中退者情報の共有については、どのように進めるべきか。)

- ・ 札幌では、サポステの高校中退者等アウトリーチ事業を呼び水にして、家庭からの拒否がなければ、中退者情報を提供してもらうしくみを作った。

(在学生への支援については、どのように進めるべきか。)

- ・ 田奈高校では、キャリア・コンサルタントに相談室に来てもらい、生徒との交流・相談活動を行っているほか、進学によらない資格支援、有料職業体験(バイトーン)等の取組みを行っている。
- ・ 一橋高校(定時制・通信制)では、定時制は「しんじゅくサポステ」と、通信制は「せたがやサポステ」と連携し、相談・セミナー等に来てもらっている。

6 ハローワークとの連携の強化について

(連携をさらに実効あるものとしていくためにはどうすればよいか。)

- ・ サポステの理念の実現のためには、サポステにいるキャリア・コンサルタントが、相談に専念できるようにすることや、ハローワークの機能を最大化できるよう、サポステの機能の整備や連携の強化をしていくことが必要。(再掲)
- ・ ハローワークでは支援が難しい方を紹介いただくことも当然ある。非正規への就業が何を表しているのか見れば、サポートステーションが、キャリア形成の観点からどういう機能を果たしているのか見ていけるのではないか。

7 周知、情報発信について

- ・ 全体の認知度も大事だが、ネットワーク構成機関の担当者レベルにどれだけ浸透してきたかも追う必要がある。
- ・ コンビニ、ゲームセンター、カラオケや、漫画、雑誌等の活用も必要。

- ・ 認知度向上のための取組は、やり方があり、ノウハウがあれば、どの団体でもできる。
- ・ サポステの理解促進のため、わかりやすいテーマ、指標、キャッチフレーズがあるとよい。

8 生活支援戦略との関係等について

(生活支援戦略との関係については、どう考えるべきか。)

- ・ 福祉関連との連携・支援をこれからどのように広げていくかはとても重要だが、福祉に広げていけばいいかというと、そうではなく、(生活困窮者でない)従来の利用者がはじき出されてしまう懸念もある。(再掲)
- ・ 特に困難な者を一生懸命に支援すると、事業として成り立たなくなる可能性もあるので、支援の評価のシステムや、インセンティブメカニズムが必要。
- ・ サポステは若者向けの総合相談窓口機能を果たしており、貧困問題を抱えている若者も1～2割いる。生活支援戦略との絡みもあり、どこに軸足を置くかはとても重要。完全に福祉的な観点で支援するのではなく、職業的自立を支援していくことが必要。